
研究分野のキーワード：教育哲学，教育思想，近代的人間観，判断力

研究紹介

(1) きっかけとしての教育問題： どのような分野であれ、教育に関する研究は、リアルな「教育問題」をきっかけとしています。そのなかで教育哲学や教育思想論と呼ばれる研究分野が取り組んでいるのは、そうした「教育問題」の問われ方、そして、私たちが知らず知らずのうちに前提としている一定の「思考パターン」の解明です。

(2) 教育の問われ方を問うこと： 私たちが教育について考えるのはどのような場合でしょうか。それはたいてい、学校や家庭のなかで何かよくないことが話題になり、マスコミを通してセンセーショナルに報道されたときでしょう。「学校が何かおかしい」「教育が混乱している」といった感覚が、人びとの教育に対する関心を引き覚まします。ところが他方で、私たちはすぐにおさまりの思考パターンにはまり込んでしまいます。むしろ、この思考パターンがあるからこそ、教育問題を「問題として」とらえることができるといってもよいでしょう。たとえば、教育問題をただちに「教育病理現象」に置き換える発想です。「いま子どもたちが苦しんでいるのは、教育や学校が病気にかかっているからだ」、というわけです。

ですが、こうした思考パターンは無意識のうちにある前提を密輸入し、そして、その前提自体をけっして疑おうとはしません。すなわち、「教育や学校はよいものだ」、病気から回復した健康な「教育そのもの」「学校それ自体」はずばらしいものだという素朴な思い込みです。私たちは何を根拠にこのように考えることができるのでしょうか。また、こうした思考パターンはどのようにして生まれ、どのようにして広まっていったのでしょうか。こうした問い（教育の問われ方を問うこと）を発し続けることが、私の考える教育哲学や教育思想論の役割です。

(3) 私の研究テーマ： 現代に通じる教育観が誕生したのはヨーロッパ近代だと考えられています。個人主義思想、人権思想、市民社会思想など、こんにちのそしてこれからの教育を構想するうえで不可欠な価値観が生み出されたのが、まさにヨーロッパ近代という時空だったからです。だとすれば、私たちの時代に特徴的な教育のあり方、教育の問われ方の秘密もそこに隠されているのではないのでしょうか（ひょっとしたらその限界も）。

こうした問題意識から、私は広く近代的人間観の成立過程やその根本要件の解明に関心もっています。それらはいずれ、現代における教育の目的（人格、主体性、自律、成人性、市民性……）の輪郭をかたどっていくことになるものです。そのなかでもとりわけ、「判断力」という能力概念の歴史的変容や教育学の意義の解明を中心的な研究テーマとして取り組んでいます。この「判断力」という能力のとらえられ方の変遷のなかに、私たちの「思考パターン」の生成過程とその問題点が集約されているように考えられるからです。